

◆平成31年度 佐賀県学習状況調査 《 5年生 国語 》

小城市立牛津小学校

全体の概要

どの領域もほとんど県の平均を上回っている。「話す・聞く」の領域は、これまでの話し合う学習の積み重ねが良好な結果につながっていると思われる。また、無解答率が低いことから、問題に粘り強く取り組んだことがわかる。

○・・・成果

●・・・課題

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>○おおむね達成できている。</p> <p>●「話すこと・聞くこと」の中でも話合いの進め方についての理解が低かった。</p>	<p>・今後も自分の考えを友達に伝える活動や話合い活動(つぼみタイム)を学年に応じて意図的に設定する。</p> <p>・つぼみタイムでは、司会の役割と話合いの進め方を提示し、全員が司会をできるようにする。</p>
書くこと	<p>○2文で書き、書き出しを指定している作文では、県の平均正答率を大きく上回っている。(14ポイント)</p> <p>●文章を読み、その良さを選ぶ問題において、県の平均正答率をやや下回った。(－3ポイント)</p>	<p>・新聞など目的をもった文章を作る時には、「よさ」を意識して書かせるなど、自分の考えや意図が伝わるように工夫させる。</p> <p>・紹介文を書くときに、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして書かせる。</p>
読むこと	<p>○おおむね達成できている。物語文よりも説明的文章の読み取る力がある。</p> <p>●物語文の内容読み取りの正答率が県の平均正答率よりやや下回っている。</p>	<p>・家読を推奨し、多様な文章に親しませると共に、人物像や物語などの全体像を具体的に想像しながら読むことができるように指導する。</p> <p>・物語文の叙述に基づいて、自分の感想を行間に書くなど、想像を広げる読み方をさせ、お互いに読み取ったことを交流する活動を取り入れる。</p>
言語事項	<p>○おおむね達成できている。特に漢字のへんを選ぶ問題は92%の児童ができていた。</p> <p>●ローマ字の表記については、県の平均正答率は大きく上回っているが、5割の児童しか「ゆめ」というローマ字を書けなかった。(9ポイント)</p>	<p>・学習した漢字やローマ字を文章の中で使おうとする習慣を身につけるよう、日頃からのノート指導に力を入れる。</p> <p>・特設タイムにローマ字学習を取り入れ、パソコンを使う時は、ローマ字入力を徹底する。</p>

◆平成31年度 佐賀県学習状況調査 《 5年生 算数 》

小城市立牛津小学校

全体の概要

4領域とも、県の平均を上回っている。とくに「量と測定」に関しては、県の正答率を7ポイント以上、上回っている。また活用に関する問題では、県の正答率をやや下回っているが、昨年12月実施の時より、正答率は上昇している。

○..成果

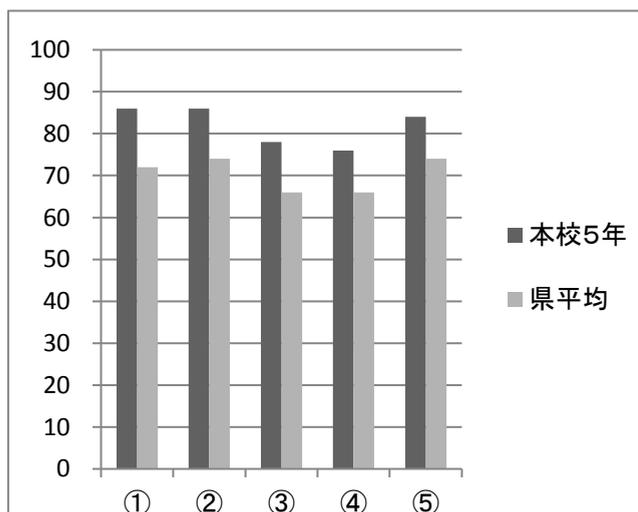
●..課題

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数量や図形の知識・理解	<p>○知識・理解に関しては、概ね県平均の正答率を上回っている。算数の用語や意味についての理解は、定着できている。</p> <p>●筆算の仕方を例にならって書く問題では、県の平均正答率を下回った。計算過程に対する知識が定着していない。</p>	<p>・計算の過程について交流活動をさせ、解き方について説明させることで知識・理解の確実な定着を図る。</p> <p>・宿題として、計算問題だけでなく活用力を問う問題を週末課題を中心に出す。</p>
数量や図形についての技能	<p>○基本的な計算技能は、定着している。とくに、小数の加法は、97%の正答率であった。</p> <p>●小数の入ったかけ算の正答率は、県の平均正答率を大きく下回った。(－5ポイント)</p>	<p>・授業の中で、適用問題を取り組む時間を設け、普段から問題に数多く取り組ませる。</p> <p>・定期的に復習させるために、小数や分数の四則計算問題を宿題として出す。また、保護者にも復習の必要性を伝え、家庭との連携を図る。</p>
数学的な考え方	<p>○ほとんどの問題で、県平均の正答率を上回っている。また無解答率も低い。難しい問題でも最後まで読み、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>●ともなって変わる量についての長い文章問題の読解と条件がついた解答の仕方が求められる問題では、県の正答率を大きく下回った。(－8ポイント)</p>	<p>・授業の中で、思考の過程を意識させるために、自力解決の際には、言葉や式、図を用いてノートにまとめさせる。</p> <p>・課題に対する自分の考えを、交流活動で説明しあったり、説明したことを文章にしたりする学習活動を取り入れる。</p> <p>・友達の考えと自分の考えを比較しながら聞くことで、自分の考えを整理し、よりよい解決方法を考えさせる。</p>

H31年度 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	今住んでいる地域の行事に参加している
②	算数の授業で学習したことを普段でも活用できないか考える
③	算数の勉強は好きだ
④	自分で計画を立てて勉強をしている
⑤	国語の授業で自分の考えを書く時考えの理由がわかるように書く



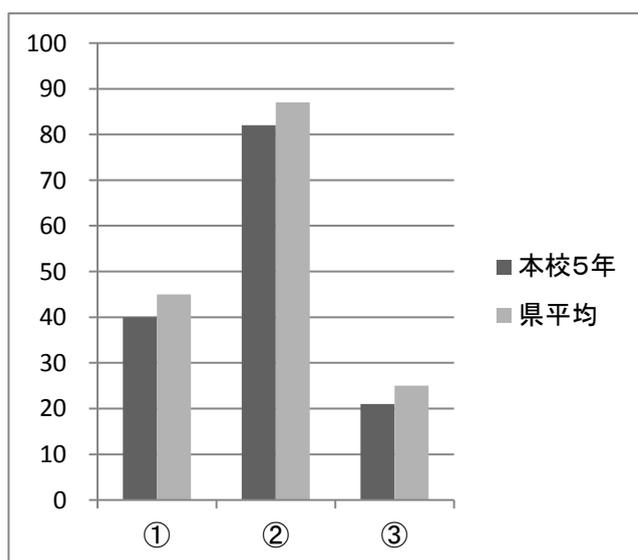
【分析と取組】□

○青少年健全育成会等の地域の社会教育団体の活動が積極的であることが、「今住んでいる地域の行事に参加する」児童の割合の高さにつながっている。今後も学校として、活動の広報や児童への参加奨励などで協力を図っていく。

○指導法改善加配教員を活用した算数科でのTTや少人数授業により、算数の学習に対する積極性や、自主的に学習に取り組む姿勢が育ってきている。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	学校の授業の予習をしている
②	授業の中で目標が示されていると思う
③	学校の授業の予習をしている授業以外に1日にどれくらい勉強しているか



【分析と取組】□

○数値が低かったものは、どれも学習に関するものである。家庭での学習のあり方と授業のあり方に、より一層の改善が必要である。

○家庭学習の時間確保するために、学期ごとに家庭学習がんばろう週間を設定し、家庭と学校とが連携して、家庭学習習慣の定着に努める。

○各学年で設定している家庭学習時間に応じた学習課題を出す。学習課題は、復習だけでなく、予習的内容も取り入れる。

◆平成31年度全国学力テスト・学習状況調査 《 6年生 国語 》

小城市立牛津小学校

全体の概要

- 今回のテストを領域別に分析すると「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」は県平均とほぼ同じであるが、「書くこと」については県平均を大きく(10ポイント)下まわっている。
- 県平均を下回っている「書くこと」については、問題内容を分析すると、問題文をていねいに読み取ったうえで、条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。
- 通常のテストは問題文が上半分に、解答欄が下半分になっているが、今回のテストは、解答欄がページの後ろにあり、解答欄と問題文を行き来しながら解いていく形式で、このような形式のテストにも慣れる必要がある。

○..成果

●..課題

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題では、全国平均正答率をやや上回っている。(3ポイント) ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる問題では、全国平均正答率を上回っている。(4ポイント) ●目的に応じて、質問を工夫する問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(－12ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> • テーマを決めたスピーチや話し合い活動を設定し、質問をしたり、答えたりする活動を行う。 • 発表する時は、理由や根拠を意識させる。 • 国語科を中心に物語文の登場人物の心情や説明文の筆者の主張を読み取る活動を充実させる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(－14ポイント) ●情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(－6ポイント) ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかをみる問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(－6ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業のふりかえりの時間に、キーワードや何文で書くなどの条件を示した条件作文に取り組ませる。 • 自分が伝えたいことや表現したいことを、図や資料を用いて書く活動を取り入れる。 • メモをとる活動を取り入れる。(箇条書きの練習) • 複数の資料をもとに記述する活動を取り入れる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題では、全国平均正答率を大きく上回っている。(4ポイント) ●目的に応じて文章の内容を的確に押さえる問題は全国平均正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 週に1度でも、音読テストを行い、教科書をきちんと読めているかを確認するなど音読指導の徹底を図る。 • 目的に応じて短い文章の内容を読み取る学習を、特設タイムで行う。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を文中で正しく使う問題では、県の平均正答率を上回っている。3問中2問は、大きく上回っている。 ●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(－6ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> • 作文や日記の中で既習漢字を使うよう指導する。 • 教室に辞書を置いて、わからない言葉があったらすぐ確かめる習慣を身につけさせる。 • 接続語や接続詞を豊富に使う学習を取り入れる。(特設タイムの活用)

◆平成31年度 全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数 》

小城市立牛津小学校

全体の概要

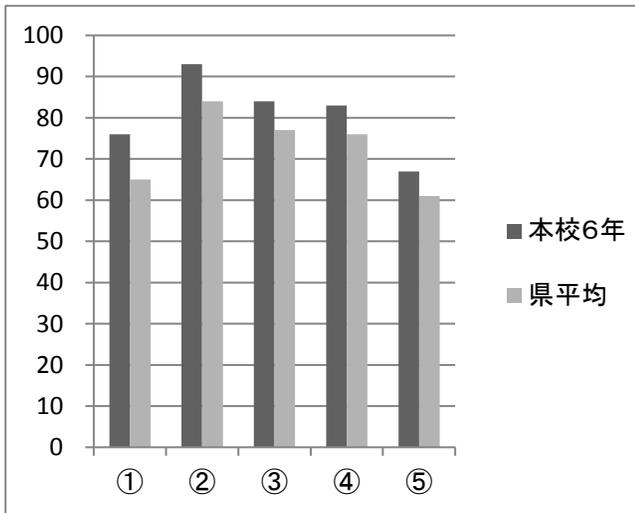
4領域の中では「図形」の平均正答率が全国平均を上回っている。問題の後半も無解答率は少なく、最後まで粘り強く取り組めていたと思われる。「数量や図形についての知識・理解」が県の正答率を大きく下回っていた。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数量や図形の知識・理解	<p>●整数÷小数の計算方法の理解をみる問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。(−12ポイント)単位量あたりの理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習のテーマに小数の乗法、除法をとりあげ、繰り返し計算問題に取り組ませる。 ・単位量の意味について、生活する上で身近なものを活用し意識づけをする。 ・計算の過程について交流活動をさせ、解き方について深く考えさせることで知識の確実な定着を図る。
数量や図形についての技能	<p>○図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、他の図形を構成することができるかの問題では、全国平均正答率より少し上回った。</p> <p>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、四則計算の順序(ルール)を理解していない。また単位量あたりについての知識理解が不十分で全国平均正答率を大きく下回った。(−8ポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習課題として、理解が進んでいない単元や前学年の内容の復習問題に取り組ませる。 ・四則計算がまざった問題に日頃から取り組みせ、計算の順序の定着を図る。 ・日常生活の中で単位量を意識させる声かけなどを行う。 ・自主学習などで教科書の巻末にあるふりかえりコーナーや学習したことをノートに写したり、練習問題に取り組んだりして定着を図る。
数学的な考え方	<p>○どの問題も無解答率が低い。記述式の解答では、全国平均正答率を少し上回り、粘り強く学習に取り組むことができていた。</p> <p>●示された場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することができるかどうかの問題では、全国平均正答率をやや下回った。(−4ポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文や資料から課題解決に必要な情報を選択し、整理していく学習活動を設定する。 ・四則計算がまざった問題や、複数の式を経て答えを出す問題に取り組ませる。 ・学習問題に取り組むときに、自分の考えを図表化したり、友達に説明したりする交流活動を仕組む。

H31年度 生活習慣に関する意識調査 【6年】

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	算数の勉強は好きですか
②	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか
③	読書は好きですか
④	今住んでいる地域の行事に参加していますか
⑤	自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるように資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか



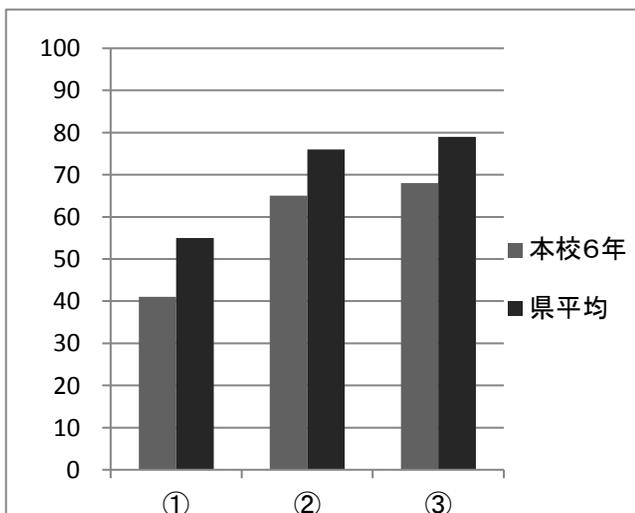
【分析と取組】□

読書や算数の学習に対する意欲や地域行事に参加している実態から、意欲的に生活している様子がわかる。また自分の考えを、工夫して伝えようと努力しているところは、本校が取り組んできた成果が表れている。

- すべての項目で高い意識が多いので、今後もほめて認める声かけをする。
- 先生からの承認確認の数値が高いことから先生への信頼度が高く学習効果が期待できる。今後も積極的に児童への声掛けを全職員で行っていききたい。
- 発表の際、工夫して行うことができているので、しっかりと認めていくことで、更に継続できるようにしていきたい。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	コンピューターなどのICTをどの程度使用しましたか
②	学級活動における学級での話し合いを生かして今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか
③	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



【分析と取組】□

○電子黒板の利用は、毎時間行えているが、児童がコンピューターを活用する場面が少ない実態から、今後は、もう少しコンピューターを使う学習活動を取り入れていく。

○言われたことに従うことが多いところがあると思われるので、学校や学級の生活の問題を考えさせたり、自主的活動を支援する声かけをしていく。

○話し合い活動の数値が低いことから、目的を明確にしたり考えたことを表出したりしやすい手立てを取っていききたい。

○何について、どのようなことを話すのか、書くのかを常にはっきり提示してから取り組ませる。